様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８２００５６

研究課題名（和文）ドミティアヌスの「記憶」と帝位継承

研究課題名（英文）Domitian's Memory and the Imperial Succession

研究代表者
福山　佑子（Fukuyama, Yuko）

早稲田大学・文学学術院・助手

研究者番号：４０６３３４２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,900,000円、（間接経費）　570,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、ダムナティオ・メモリアエ（記憶の断罪）を手がかりとして、紀元後96年のドミティアヌスからネルウァへの帝位継承の分析を行った。その結果、ダムナティオ・メモリアエによる記録の破壊行為は叙述史料に残されているほど苛烈ではなかったものの、辺境地域においても広く行われていたことが確認でき、ネルウァやトラヤヌスがローマ軍との関係を重視していた姿が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：My research aims to clarify the political background of the imperial succession from Domitian to Nerva and Trajan, using Damnatio Memoriae to verify the attitude of people towards Domitian. The effect of Damnatio Memoriae was incompleteness and there are many epigraphical evidences which still have the name of Domitian. Investigating epigraphical records of Domitian, I could make clear that the his name was erased on much of milestones set up in remote regions. The relationship between Domitian and the Roman Army was strong. For that reason, successive emperors have to attach very importance to manage them.

研究分野：西洋史

科研費の分科・細目：研究活動スタート支援

キーワード：ローマ皇帝　ダムナティオ・メモリアエ

１．研究開始当初の背景

近年、「アラブの春」のような体制転換や政権交代が相次いでいる。このような政治の転換時に様々な混乱が生じるという事例は、古今東西を問わない。しかし、本研究で扱う紀元後 96 年のドミティアヌスからネルウァへの帝位継承では、前皇帝が暗殺された同日に血縁関係がない新皇帝が即位したにもかかわらず、大きな混乱は生じなかった。この表面的には平穏に行われた帝位継承の前後に、どのような政治的駆け引きが行われたのかについては、近年も活発に議論が行われているが、文学史料を辿る以上の議論は行われていないのが現状である。(B. W. Jones, *The Emperor Domitian*, London, 1992; J. Grainger, *Nerva and the Roman Succession Crisis of AD 96-99*, London and New York, 2004; A. W. Collins, "The Palace Revolution: The Assassination of Domitian and the Accession of Nerva," *Phoenix* 63 (2009) 1-2, pp. 73-106）また国内では、1986 年に発表された南川氏の論文以降、この問題を取り上げた研究はない。（南川高志「トラヤヌス政権成立への政治過程」『西洋古典学研究』第 34 号（1986）pp. 81-92.）

申請者はこれまで、古代ローマにおけるメモリア（memoria：記録・記憶）の改変を主題として研究を実施してきた。ローマでは自らのメモリアを後世に残すために、モニュメント、彫刻、碑文などを用いて、様々な自己表現を行っていたが、その一方で、共同体の一員足り得ないと判断された人物の死後に、当該人物のメモリアを破壊する処分も行われていた。これが、現在ダムナティオ・メモリアエとして知られる処分である 3。具体的には、公的及び私的な彫像の破壊、碑文からの氏名の抹消などが行われていた。申請者は、この処分に着目し、特に私的領域における氏名の削除の問題から、ローマ人による過去や記録の改変行為に対する向き合い方の検討を行なってきたが、現在はこの処分の政治利用と、その結果としての「歴史」の構築に関心を持っている。

そこで、これまで実施してきた古代ローマのメモリアを扱った研究の蓄積を、皇帝と元老院を中心とした政治史研究に取り入れることで、近年の記憶・記録を巡る議論を含めた新たな視座から 96 年の帝位継承をめぐる問題を再検討し、五賢帝政治の確立過程の様相を解明したいと思うに至った。

２．研究の目的

本研究は、紀元後 96 年の「悪帝」ドミティアヌスの暗殺とネルウァの即位における帝位継承を検討の対象として、後継者がいないまま前皇帝が死去したにもかかわらず、内乱等を伴わない円滑な政権移行と五賢帝政治の確立が行われた背景を明らかにすることを目的とする。特に、先行研究では副次的なものとして扱われてきた碑文史料に着目し、死後に元老院によるダムナティオ・メモリアエ（Damnatio Memoriae：記憶・記録の断罪）を被り、あらゆる碑文からの氏名の抹消が決議されたと伝えられる、ドミティアヌスの碑文記録における氏名抹消の有無を、前皇帝との関係性を示す１つの指標と定めることで、新たな視座から、当時の皇帝位を取り巻く政治動向、ドミティアヌスの「記憶」が死後に残した影響、ネルウァが用いた帝位継承のためのプロパガンダの様相を明らかにし、五賢帝政治成立過程の解明を試みるものである。

３．研究の方法

本研究を実施するにあたり、まず国内に所蔵されている碑文集成（Corpus Inscriptionum Latinarum, L'Année épigraphique 等）を精読し、断罪された皇帝の氏名が碑文から削除されている事例の収集を行った。この文献調査で収集した事例のうち、まずドミティアヌスの事例の先駆例となるカリグラの事例をまとめ、時系列に整理し、政治背景とあわせて考察を行った。その結果、当該時期の皇帝に対するダムナティオ・メモリアエが、制度として機能したというよりも、次代の皇帝が漸次的にカリグラに対する攻撃的な側面をあらわにしたことによる副次的な産物であったことを明らかにした。これは、3 月に早稲田大学ヨーロッパ文明史研究所から出版された『ヨーロッパ・「共生」の政治文化史』において、「クラウディウスによる『共生』の模索とカリグラの記憶」にまとめている。このカリグラの事例におけるクラウディウスの主導的役割は、ドミティアヌスの事例の文献史料の叙述で元老院が主導的な役割を果たしたとされているのとは対照的であり、

平成 25 年度は、昨年度行った碑文史料の調査結果を踏まえ、叙述史料の分析を中心に研究を進めていった。スエトニウス、カッシウス・ディオの記述を中心に、アウレリウス・ウィクトル、エウトロピウス、ラクタンティウスなど、後の時代の著述家たちの記述も対象にしながら研究を行った。その中で、ダムナティオ・メモリアエがローマ世界に生きた人々にどのように捉えられていたのかという問題を分析し、その結果の一部を研究報告と論文という形でまとめた。ここでは、皇帝に対する処罰が神々の意向の結果であり、「悪帝」が「神々の敵」とみなされてい

たかどうかという点からダムナティオ・メモリアエを考察した。帝政後期に頻繁に目にすることとなる「悪帝」は「神々の敵」であるという表現が、帝政前期には歴史叙述では見られないものの、皇帝を批判した文学作品においては確認できることから、既にドミティアヌスの時期にはこのような考え方が生じていたことを明らかにした。

この内容を、2013 年 10 月に開催された *The Tenth Japan-Korea-China Symposium on Ancient History of Europe* における口頭報告 "The Intervention of Gods in the Punishment of "Bad" Emperors in the *Historia Augusta*" として発表した。また、*Journal of Greco-Roman Studies* 52 (2013)に論文としても発表している。

本研究では、各年 1 度の海外調査を行った。2013 年 3 月には、イギリスとフランスにおいて文献調査、史料撮影を行った。文献調査ではロンドンの Institute of Classical Studies、パリの Bibliothèque Gernet-Glotz を利用した。また、オックスフォード大学で開催されたローマ考古学のセミナー、ロンドン大学で開催されたローマ美術のセミナーに参加し、近年の研究についての知見を得た。また、ローマ皇帝関連の彫像と碑文が多く収蔵されている、大英博物館、ルーブル美術館において、ドミティアヌスや前後の皇帝に関連する収蔵品の調査も行った。

2013 年 9 月には、オーストリアとドイツにおいて文献調査、史料撮影を行った。文献調査ではミュンヘンのバイエルン州立図書館を利用した。また、ドミティアヌスに関連する貨幣、彫像、碑文の調査を、ウィーン美術史美術館、ミュンヘンのグリュプトテーク、バイエルン州立考古学博物館、バイエルン州立貨幣収蔵館において行った。

４．研究成果

本研究では、ダムナティオ・メモリアエ（記憶の断罪）を手がかりとして、紀元後 96 年のドミティアヌスからネルウァへの帝位継承の分析を行った。最初に行った、碑文史料におけるドミティアヌスの名前の処遇についての調査からは、ドミティアヌスとの関係が良好であり、彼の死後に神格化を求める行動も行ったとされるローマ軍が多く駐在する辺境地域に設置されたマイルストーンにおいて、地域によってはドミティアヌスの名前が徹底的に削除されていたことが明らかとなった。軍は皇帝の擁立にも影響力を持っていることから、地域ごとのダムナティオ・メモリアエ実施程度の違いから、ネルウァとトラヤヌスがドミティアヌスを支持していた軍とどのように向き合ったのかの考察を行った。その結果、ダムナティオ・メモリアエによる記録の破壊行為は叙述史料に残されているほど苛烈ではなかったものの、辺境地域においても広く行われていたことが確認でき、ネルウァやトラヤヌスがローマ軍との関係を重視していた姿が明らかとなった。

また、研究の過程では、ドミティアヌスからネルウァへの帝位継承におけるダムナティオ・メモリアエの役割を検討するために、カリグラ以降の皇帝たちに対するダムナティオ・メモリアエの発展と変容についての検討も行った。ドミティアヌスに対するダムナティオ・メモリアエは、皇帝に対して行われるダムナティオ・メモリアエが確立された時期のものであるとされているが、彼以前の皇帝たちに対して行われたものとは、断罪の手法や実施状況が異なっており、徐々にシステム化された記録の破壊行為が行われるようになったこと。また、断罪された皇帝を攻撃する理由付けにも変化が確認でき、神々に背く行為をしたために断罪されるという理由付けが明確になっていくことが叙述史料から確認できた。

本研究の成果として、これらの研究過程で明らかとなった内容については学会発表１件、研究論文２件として発表している。最終的な研究成果である、ドミティアヌスからネルウァへの帝位継承における軍の役割と処遇については、2014 年度の雑誌論文としての刊行を予定している。

本研究は、ダムナティオ・メモリアエによる碑文史料からのドミティアヌス名の削除の有無を手がかりとして、ドミティアヌス、ネルウァ、トラヤヌスとローマ軍との関係を再考するものであった。先行研究では、首都ローマを中心とした親ドミティアヌス派、反ドミティアヌス派や近衛隊が帝位継承の議論の中心であったが、本研究は軍に着目し、新たな視点から帝位継承の背景を考察するものであった。

今後の展望としては、本研究で行ったダムナティオ・メモリアエを手がかりとした帝位継承の政治背景の分析という手法を用いて、ドミティアヌスからネルウァへの帝位継承以外の事例にも検討の対象を広げ、帝政前期から帝政後期にかけてのローマの皇帝制度の変容を明らかにしていきたいと考えている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 ２ 件）

① 福山佑子「クラウディウスによる『共生』

の模索とカリグラの記憶」『ヨーロッパ・「共生」の政治文化史』成文堂，2013年3月，3-20頁，査読有.

② Yuko Fukuyama “The intervention of gods in the punishment of “bad” emperors in the *Historia Augusta*," *Journal of Greco-Roman Studies* 52 (2013), pp. 141-151, 2013年12月，査読有.
http://www.dbpia.co.kr/Article/3360060

〔学会発表〕（計 1 件）

① Yuko Fukuyama, “The Intervention of Gods in the Punishment of “Bad” Emperors in the *Historia Augusta*,” *The Tenth Japan–Korea-China Symposium on Ancient History of Europe: City-State, Empire and Identity in the Ancient World*, 北京師範大学（中国，北京市）, 2013年10月

６．研究組織

(1)研究代表者

福山　佑子（FUKUYAMA, Yuko）
早稲田大学・文学学術院・助手
研究者番号：40633425